

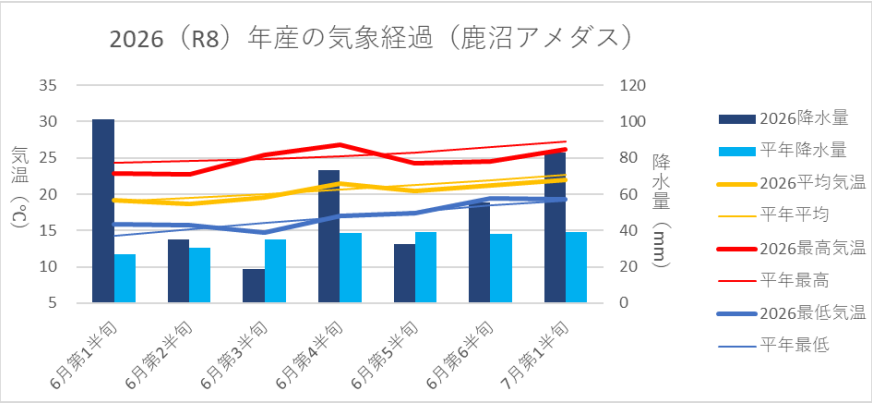
令和8(2026)年産 水稻生育診断速報第4号

令和8(2026)年7月13日
上都賀農業振興事務所

- 7月上旬における生育は平年並に進んでおり、幼穂長から予測される出穂期も平年並になる見込み
- 用水が不足しないよう、かん水に気をつけましょう。
- 畦畔除草及び薬剤散布のタイミングを逃さないようにしましょう。

気象経過(6月第1半旬～7月第1半旬・鹿沼アメダス)

平均気温は、概ね平年並に推移しました。期間の降水量は、台風や梅雨前線の影響もあり、161%とかなり多く推移しました。(7月6日現在)



調査結果の概要(コシヒカリ)

過去5年の平均と比べ、草丈は「低く」、茎数は「平年並」、葉色は「やや濃く」、幼穂長は「短い」状況です。

表1 7/6 調査データ

調査地点	項目	草丈 cm	茎数 本/㎡	1株茎数 本/株	葉齢	葉色板		幼穂長 mm
						葉色板	SPAD	
日光市木和田島	今年	68.2	452	24.0	12.1	3.3	37.2	8.5
	過去5年平均	75.4	480	24.9	11.3	2.9	32.3	13.0
	平均値との差・比	-7.2	94%	-0.9	0.8	0.4	4.9	-4.5
鹿沼市久野	今年	73.2	438	27.3	12.5	3.9	40.2	6.8
	過去5年平均	77.3	419	26.1	11.7	3.9	38.0	21.4
	平均値との差・比	-4.1	105%	1.2	0.8	0.0	2.2	-14.6

表2 幼穂長から予測される出穂期(7/6 現在)

調査地点	移植日	幼穂長	出穂期	昨年の出穂期
日光市木和田島	5/4	8.5mm	7/24	7/21
鹿沼市久野	5/5	6.8mm	7/24	7/19

今後の技術対策

- (1) 現在、幼穂形成期に入っており、最も水を必要とする時期です。
用水が不足しないよう、かん水に気をつけましょう。
- (2) 予測される出穂期は平年並で、昨年より出穂期は遅れる見込みです。斑点米カメムシ類防除に向けた草刈りや薬剤散布のタイミングに注意しましょう。
(クモヘリカメムシの初捕獲は 7/7 でした(昨年は 7/2)。

<現在の稲の状況(7月6日撮影)>



写真1 日光市木和田島



写真2 鹿沼市久野

◎出穂期の予測

栃木県農業総合研究センターによると、管内では5月3日移植のコシヒカリで、7月24日から出穂が始まると予測されます。

あくまで気象データによる推測なので、ほ場の移植日、地温や水温の影響により実際の生育は差があります。

出穂期が近づいたら、以下の方法で、幼穂長を計測し、実際の出穂期を予測しましょう。

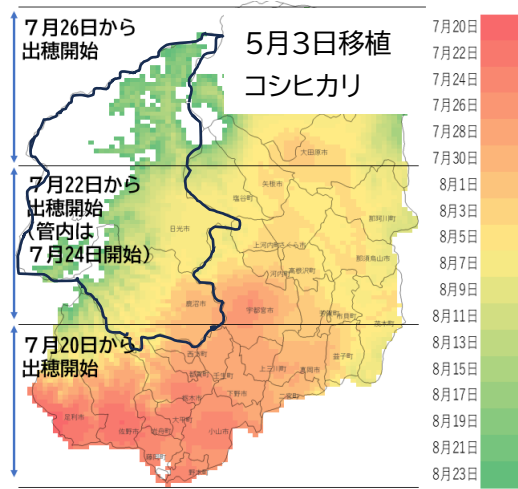


図1 気象メッシュデータによる出穂期予測
(農業総合研究センター計算・DVR法・計算基準日 6/30)

あなたもできる出穂期予測

ほ場の出穂期は、自分で予測することができます。

- ① 平均的な株を5株探します。
- ② 株の中で、最も草丈の長い茎を地際部から取ります。
- ③ カッターナイフ等で縦に切って、幼穂を出現させます。
- ④ 幼穂長を測定します。

カッターナイフで縦割りした図

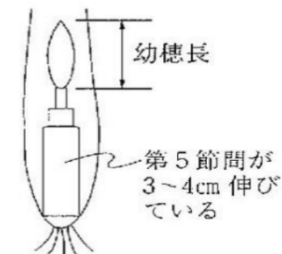


図2 幼穂長の調べ方

(出典:安心イネつくり・農文協)

表3 幼穂長と出穂前日数(コシヒカリ)

幼穂長 mm	出穂前日数
0.2	30 日
0.8	25 日
3.6	20 日
17.2	15 日
72.9	10 日
187.3	5 日

◎ 斑点米カメムシ類対策



写真3 上都賀地域における主要な斑点米カメムシ類

表4 雑草地等でのすくい取り調査結果

(頭/20 回振り)

採取日	6月25日	6月25日	6月29日	6月29日	7月7日	7月7日	7月7日
地点 (優先草種)	鹿沼市雑草地 (ねみき)	鹿沼市畦畔 (メシバ・I/30)	日光市雑草地 (I/30ゲサ)	日光市雑草地 (メシバ)	鹿沼市畦畔 (メシバ)	鹿沼市雑草地 (I/30)	日光市畦畔 (メシバ)
クモヘリカメムシ	0	0	0	0	0	8	4
ホソハリカメムシ	0	0	1	9	2	2	4
イネカメムシ	0	0	0	0	0	0	0
アカヒゲホソミドリカスミカ	2	9	5	2	0	0	8
アカジガカスミカ	2	1	0	0	0	0	1
合計(小型が除く)	0	0	1	9	2	10	17

水田及び周辺の畦畔をよく観察しながら、**畦畔等の除草と薬剤防除を組み合わせた対策**により、斑点米の発生防止に努めましょう。

水田周辺の除草

- ① 1回目：水稻の出穂2～3週間前
 - ② 2回目：水稻の出穂期
- (1回目に刈ったイネ科雑草が出穂する前) } 2回の草刈り

注1 ①だけでは、イネ科雑草が再出穂してカメムシ類が飛来するので、効果が下がります。
②だけでは、イネ科雑草の穂に集まっていたカメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害させることになります。
①② 両方の除草ができない場合は、**水稻の出穂期10日前までに除草を済ませましょう。**

薬剤防除

- ① 1回目：出穂期～出穂10日後まで
 - ② 2回目：1回目から7～10日後
 - ③ 3回目：2回目から7日後(多発地) → 粒剤
- } 液剤

注2 ③中山間地(多発地)において、液剤(2回)と粒剤(1回)を組み合わせた3回防除が有効です。(3回目に粒剤散布を行うことで、登熟期後半までカメムシの幼虫の加害を抑制し、斑点米の発生を低減することができます。)



写真4 斑点米カメムシ類のエサとなる主な雑草